

“G7 広島サミット”

「核軍縮広島ビジョン」は死者に対しての侮辱だ！



ロシアが侵攻したウクライナでの戦争状態に平和の光も見えず世界中が軍事一辺倒に動き、米中対立が軍事・経済とあらゆる領域で激化する中、G7 サミットは日本が議長国となり広島で開かれた(2023年5/19~5/21)。

“岸田首相は広島出身で、開催が被爆地広島”と言うことだけでなんとなく国民の間には“核兵器全面廃棄への方向性が少しでも出せるのでは、平和への道筋を作ってくれるのでは”と淡い期待を持ってしまった。(マスコミもG7の狙いを冷静に分析することなくそのような方向で報道し続けた)



しかしG7首脳は「平和記念資料館」を視察するも(40分)記者の取材を認めず、何を見たのかも非公開(館内でG7の首脳にお話をした被爆者は首脳の方々の様子を語れない)。

5/19発表された「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」は核軍縮ならぬ核兵器を使った拡大抑止力の正当性を高らかに宣言するもの。市民の間に怒りと悲しみが・・・

「広島ビジョン」では“ロシアへの遺憾・中国への懸念・北朝鮮への制裁・イランへの懸念”とそれぞれの国の核政策を厳しく批判・攻撃。然るにG7の立場については「すべての者にとっての安全が損なわれない形での核兵器のない世界の実現に向けたわれわれのコミットメントを再確認」「我々の安全保障政策は、核兵器はそれが存在する限りにおいて、防衛目的のために役割を果たし、侵略を抑止し、ならびに戦争及び威圧を防止すべきとの理解に基づいている」と。これでは核兵器による拡大抑止論をG7は実行しているのだと全世界に向かって宣言しているようなものです。

このビジョンに対して

元広島市長平岡敬さんは「岸田首相はヒロシマの願いを踏みにじった」「核抑止力の維持の重要性が強調された。核と戦争を否定してきた広島がその舞台として利用された」と厳しく批判。

サー○節子さんもG7首脳声明を読み失望した。「これだけしか書けないのか。死者に対しての侮辱だ」「核兵器禁止条約についても声明は一言も触れなかった。サミットは大変な失敗でした。」「ウクライナ情勢を巡っては戦争を続ける準備の話ばかり聞かされている。うれしくありません」と。(朝日新聞5/22より)

岸田首相が議長として展開したG7広島サミットは結局、ゼレンスキーの来日もありG7としてウクライナへの軍事的全面支援(バイデン・ゼレンスキー両大統領が広島市内で会談しF16戦闘機をはじめ517億円の武器提供を)・ロシア制裁、そして核拡大抑止論の正当性を宣言する場となってしまったのです。G7・岸田首相が求めていたのは最初からこのようなものだったのかも(岸田首相は大成功だったと自画自賛)・・・

市民は一人一人平和への灯火を掲げ一步一步「平和の構想」をつくっていきましょう。核兵器禁止条約を政府に批准させ核のない世界をつくりましょう。